

ライフサポートひなた 訪問リハ

症 例 概 要 利用者氏名：90代・女性・要介護4

病名：左大腿骨頸部骨折、左橈骨遠位端骨折（R5.7）

既往歴：弁膜症、腰部脊柱管狭窄症、白内障、不整脈、虚血性大腸炎、心不全、
帯状疱疹

経過：R5.7月自室内にて転倒し上記診断名受傷。既往歴の影響で保存療法となり、
寝たきりの状態でサービス付き高齢者向け住宅へ退院、訪問リハビリ開始となる。

内 容

令和5年8月から当事業所の訪問リハビリを開始。開始時は、左大腿骨頸部骨折、左橈骨遠位端骨折の影響で痛みが強く出現しており、体動も困難であった。非荷重の医学的制限もあり、起き上がりも困難であり寝たきりの状態であった。

長時間の臥床により骨折部位だけではなく、腰痛の出現、衣服（ガウン）の着脱やオムツ交換時も介助が必要であり痛みが強く出現していた状態であった。

訪問リハビリの目標として、寝返りや更衣、オムツ交換の際の協力動作獲得、腰痛軽減を掲げ、痛みに合わせて全身的なストレッチ、愛護的な関節可動域練習、基本動作練習を中心に介入した。

全身的な筋緊張の調整にて腰痛軽減、また時間の経過とともに骨折部位の炎症症状も落ち着き、徐々に基本動作において協力動作がみられるようになった。

それにより、徐々に自信がつき、介助下にて端坐位練習・立位練習、リクライニング車椅子座位練習が可能となり、その後自身で立位保持を保てるようになった。そして、日常的に活動が増え、身体機能の改善が促進でき、1時間程の離床やベッド～普通型車椅子の移乗動作軽介助、普通型車椅子操作も獲得できるようになった。

また、施設内にて行われるイベント（カラオケやこども食堂など）に参加する機会も増えた。ご本人としても、部屋ですっと過ごすだけではなく、ご自身のペースで離床し、前のように部屋から出て他者との関わりが出来たことで表情も明るくなっていった。

今では日常的に笑顔が多くみられるようになり、イキイキとした表情で、自ら積極的に外出（散歩）を提案するなど、主体的な訪問リハビリを継続している。